

夏休み小特集×地域おこし協力隊通信

「見上げてみよう 南幌町の星空」

いつだって見上げれば
そこには、満天の星が

せわしなく過ぎる日々の中でふと、「日常から離れて大自然に飛び込みたい」と思うことはありませんか。私たちのまち「南幌町」は、普段あまり気には留めなくても、実はあつと息を呑むような美しい自然に囲まれています。

私たちを包み込む星空もそのひとつ。都市部では見られなくなってしまう天の川も、町内では今も多く地域で見られます。

美しい星空の一番の条件は、周囲に明るいものがないということ。街中は看板や街灯により、かすかな星の光はかき消されてしまいます。また、たくさんビルや建物が視界を遮っているのは、観察するのも難しいのです。

都市部に比べると、日常生活の利便性では敵いませんが、空の広い南幌町だからこそ見えるものが、私たちの頭上には広がっています。

星空を眺めること。日々の喧騒から離れ、悠久の彼方へ想いを馳せる。

今夜、空を見上げてみませんか。

夏の宵に南の空に昇る「さそり座」

しっぽも観察できるのは、視界が開けた南幌ならではの

南幌町 8月上旬 20時半頃の空▶
(イラスト提供:みんなの星空☆えべつさん)

さそり座は、アルファベットのSの字のような星並びが特徴で、くると丸まった部分がしっぽ、赤く輝く星「アンタレス」は心臓にあたります。今年は、近くで木星が輝いているので、目印となるでしょう。



土星の耳

初めて天体望遠鏡で星をみただけの小学生のときでした。望遠鏡の小さなレンズの中で、真っ黒な宇宙の中を、小さな土星が一人前に輪っかを抱えて誇らしげに浮かんでいました。私のすぐ目の前にいる様にみえた小さな土星の本当のサイズは、地球の9倍の大きさで地球からの距離は近い時でも約13億kmもあります。そんなに離れた場所にある惑星が、望遠鏡を覗くと近くにある様にみえる事に不思議な気持ちになりました。

十七世紀、日本が江戸時代の頃にイタリアでガリレオ・ガリレイがはじめて手作りの天体望遠鏡を使って土星の観測をし、「土星には耳がある」と記したそうです。ただ性能が優れない望遠鏡では耳があるように見えたのかもしれない。他にも金星や木星の衛星、月の凹凸も観測しました。そして、大変な事実に出り着きます。地球が動いているのです。今では当たり前ですが、当時は地球が自転をしてはいけない社会でした。その後、裁判にかけられ、近年まで地球が動いている事実を認めてもらえなかったエピソードは有名な話です。

今年の夏

は土星が見ごろです。

空が綺麗な南幌町では、夏の宵にさそり座の心臓を

赤く輝か

せる星アンタレスも、天の川の星もたくさんみることが出来ます。ガリレオが裁判の後「それでも地球は動いている」と言っただけは定かではありませんが、じつと星を眺めると地球が動いていると感ずることが出来ます。ガリレオのみた土星に耳があるか確かめるのも楽しみます。



ぼろろ 星空観察会 2019



ぼろろから
月や木星、土星、
そして夏の星座を
観察しよう

日時 8月11日(日) 18時30分～
講師 みんなの星空☆えべつ の皆さん
申込み 不要
問合せ 南幌町教育委員会(☎378~6620)



地域おこし協力隊 青木千佳さん